

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

I 調査の実施状況

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日 令和5年4月18日(火)

(3) 受検者数・受検校数・実施教科等

※ 数値は、調査日に実施した公立学校数及び公立学校児童生徒数

	県受検者数(受検校数)	全国受検者数(受検校数)	実施教科等
小学校第6学年	15,462人(365校)	964,350人(18,619校)	国語・算数・質問紙
中学校第3学年	14,527人(155校)	893,528人(9,339校)	国語・数学・英語・質問紙

※ 政令指定都市である岡山市は、義務教育の実施について、財源や人事、組織に関する権限を有し、それに基づいて、岡山市の実態を踏まえた目標や指標を設定し、独自の教育施策を推進しています。
ここでは、県民の皆様に、岡山県全体の教育の状況をお知らせするため、岡山市における結果も含んだ数値を公表しています。

2 学力調査の結果

県全体 【小学校 平均正答率 [%】】

		国語	算数	合計	差 ※1
R5	岡山県	68	61	129	-1
	全国	67.2	62.5	129.7	
R4	岡山県	67	62	129	±0
	全国	65.6	63.2	128.8	
R3	岡山県	66	69	135	±0
	全国	64.7	70.2	134.9	

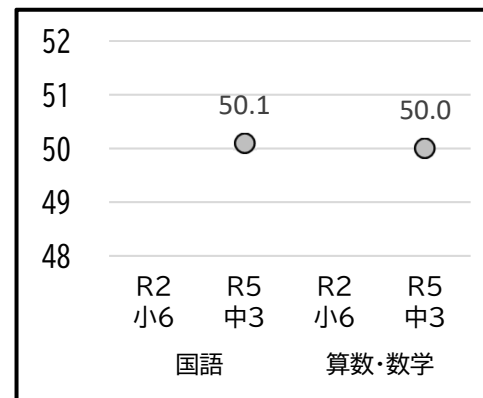
※1 全国の合計の小数第1位を四捨五入した値と県の合計との差を算出

同一集団

標準スコアの推移 ※2

※2 標準スコアとは、全国の平均正答率を50としたときの換算値

R2は全国学力・学習状況調査を実施していないためR2の小6の数値はない。



※3 英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の結果

※4 英語【話すこと】の結果は、国公表の全国値(国公私)

【中学校 国語・数学 平均正答率 [%】】

		国語	数学	合計	差 ※1
R5	岡山県	70	51	121	±0
	全国	69.8	51.0	120.8	
R4	岡山県	69	51	120	±0
	全国	69.0	51.4	120.4	
R3	岡山県	65	57	122	±0
	全国	64.6	57.2	121.8	

【中学校 英語 平均正答率 [%】】

		英語 ※3	英語【話すこと】
R5	岡山県	44	—
	全国	45.6	12.4 ※4
H31	岡山県	54	—
	全国	56.0	—

○ 小学校の国語は、全国平均を上回り、中学校の国語・数学は、全国平均と同程度であった。

▲ 小学校の算数及び中学校の英語は、全国平均を下回った。

3 学習状況（児童生徒質問紙）調査の結果

※ 各質問項目は、質問紙調査の質問文をそのまま用いている。

授業理解・学習習慣

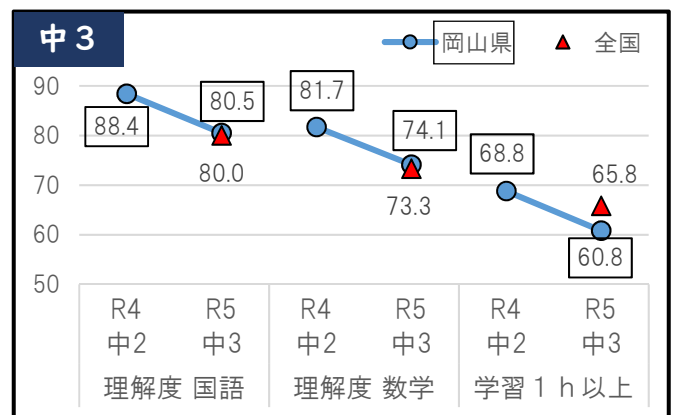
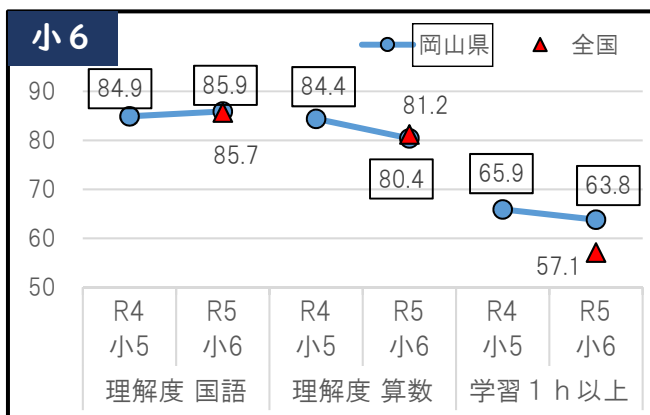
- ① 国語の授業の内容はよく分かる。（理解度 国語）
- ② 算数（数学）の授業の内容はよく分かる。（理解度 算数・数学）
- ③ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習1h以上）

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》

年度	小6			中3		
	理解度 国語	理解度 算数	学習 1h以上	理解度 国語	理解度 数学	学習 1h以上
R5	85.9	80.4	63.8	80.5	74.1	60.8
R4	83.3	80.1	67.1	81.8	77.5	64.9
R3	83.8	83.7	70.6	78.2	75.3	73.5

《同一集団における肯定的回答割合の推移〔単位：％〕》

※ R4の小5、中2の値は県調査の数値



学びに向かう力

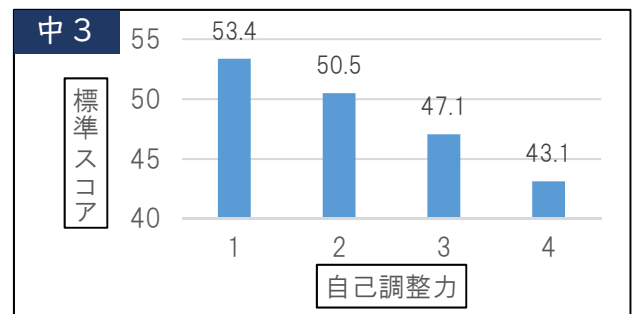
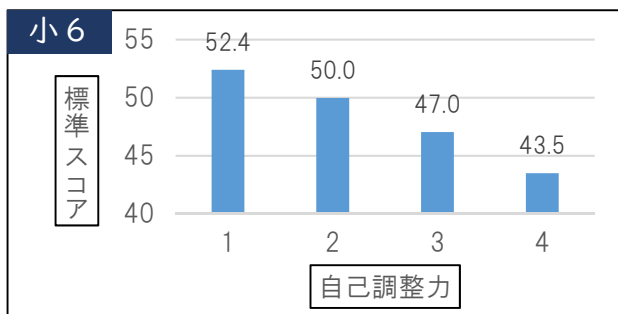
- ④ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。（自己調整力）

※ R3は「自己調整力」を問う項目なし

年度	小6	中3
R5	77.7	69.0
R4	78.5	74.7

《「自己調整力」と「標準スコア」のクロス分析》

※ クロス分析で用いた「標準スコア」の数値は、小6では国語・算数、中3では国語・数学・英語の平均値



[1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない]

- 小学校の「理解度」の肯定的回答割合は、R4年度から増加した。
- ▲ 中学校の「理解度」の肯定的回答割合は、R4年度から減少し、「学習1h以上」の回答割合は、小・中学校共に減少した。
- ・ 「自己調整力」と「標準スコア」のクロス分析から、肯定的に回答した児童生徒ほど標準スコアが高い傾向が見られた。

授業改善

- ⑤ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。(主体的な学び)
 ⑥ 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。(対話的で深い学び)

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》

年度	小6		中3	
	主体的な学び	対話的で深い学び	主体的な学び	対話的で深い学び
R5	78.2	81.9	78.9	80.5
R4	76.1	80.8	78.9	79.8
R3	76.8	78.2	80.8	78.4

- 小学校の「主体的な学び」の肯定的回答割合は、R4年度から増加し、中学校は横ばいであった。
 ○ 小学校・中学校共に、「対話的で深い学び」の肯定的回答割合は、R4年度から増加した。

ICT機器の活用

- ⑦ 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

《年度ごとの「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合〔単位：％〕》

年度	小6			中3		
	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～ 月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～ 月1回未満
R5	26.5	33.5	39.9	26.2	31.5	42.1
R4	24.8	29.0	46.0	19.4	26.2	54.4
R3	8.6	—※5	91.2	6.6	—※5	93.1

※5 R3は「週3回以上」の選択肢なし

- 「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合は、R4年度から小・中学校共に増加した。

夢育

- ⑧ 将来の夢や目標を持っている。(夢・目標)
 ⑨ 自分には、よいところがあると思う。(自己肯定感)

《年度ごとの肯定的回答割合〔単位：％〕》

※6 「夢・目標」の質問は、「1:当てはまる」と回答した児童生徒の割合

年度	小6		中3	
	夢・目標 ※6	自己肯定感	夢・目標 ※6	自己肯定感
R5	61.1	85.8	41.6	82.0
R4	61.3	80.9	42.2	81.1
R3	60.2	79.2	41.2	79.1

- ▲ 「夢・目標」の「1:当てはまる」に回答した割合は、R4年度から小・中学校共に減少した。
 ○ 「自己肯定感」の肯定的回答割合は、R4年度から小・中学校共に増加した。

今後の取組

※ 岡山市を除く市町村の公立小・中学校及び義務教育学校、県立中学校等を対象としている。

全国及び岡山県の実施概況から、次のような成果（○）と課題（▲）が考えられる。

- 1 「授業改善」に関する質問紙の結果から、各学校において児童生徒の学ぶ力の育成に向け、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりが進められている。
- 2 「夢育」に関する質問紙の結果から、各学校の課題に応じた学校経営アクションプランを基に、学校全体で自己肯定感の向上を図る取組が進められている。
- ▲ 1 小学校算数、中学校数学・英語において、正答率40%以下の割合が全国値を上回ったことから、つまずきの解消が必要である。
- ▲ 2 中学校の「学習習慣」に関する質問紙の結果から、生徒の家庭学習時間の確保とともに、主体的に家庭学習に取り組むに当たっての仕掛けが必要である。
- ▲ 3 「ICT機器の活用」に関する質問紙において、「ほぼ毎日」と回答した割合が全国値を下回ったことから、児童生徒の1人1台端末の日常的な活用を促進し、文房具として「ほぼ毎日」活用する状況をつくる必要がある。
- ▲ 4 小・中学校の「教職員の資質能力の向上」に関する学校質問紙の設問における全国との差から、校内研修等を充実させ、調査結果を踏まえた学校や個々の教員の課題に応じ、専門性を高めていく必要がある。

県教委の取組

- (1) 管理職の学校経営力と教員の授業力の向上に向けて【関連：○1・2 ▲4】
 - 学校経営アクションプランに基づく市町村教委と協働した「管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問」により、各学校の課題に応じた支援の充実及び授業観察を通じた指導主事等の適切な指導の実施
- (2) 授業改善の推進に向けて【関連：○1 ▲1・2・3・4】
 - 市町村教委及び授業改革推進チームと調査分析の視点を共有し、授業改革推進チームを核にした、児童生徒に付けたい力を着実に付けられる授業づくりの実現に向けた校内指導体制の充実と、授業改善に向けた対話のある学校風土の醸成を支援
 - 学習者用デジタル教科書等の効果的な活用事例等の提供による生徒の英語4技能向上のための効率的・効果的な授業づくりへの支援
- (3) 学習内容の確実な定着に向けて【関連：▲1】
 - 各学校において一層短いサイクルで学習内容の定着状況を確認し、当該学年で身に付けるべき学習内容の確実な定着を図るため、CBT(Computer Based Testing)方式による定着状況ウォームアップ(小学校)及び定着状況確認テストを提供・実施
- (4) 家庭学習の充実に向けて【関連：▲2・3】
 - 各学校及び個々の児童生徒の実態に応じた家庭学習の充実に向け、研修パッケージを市町村教委と共有するとともに、持ち帰りを含めた児童生徒の1人1台端末の効果的な活用による家庭学習の推進を図る好事例を収集・発信
- (5) 夢育・キャリア教育の推進に向けて【関連：○2】
 - 総合的な学習の時間を核とした「岡山型PBL」の推進と好事例の普及

各学校の取組

各学校において、各種調査結果から把握した実態を基に、学校や学級、個々の児童生徒の成果と課題を明確にし、次のような学力向上に向けた取組を促進する。

- (1) 授業改善の推進
 - 児童生徒に付けたい力が着実に付く授業づくり
 - ・ 「岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善、『一步先へ!』」を踏まえた単元を見通した指導計画に基づき、児童生徒に「学びを委ねる場」がある授業を実践
 - 各教科等での学習において、児童生徒が課題を自分事として捉え、他者と協働しながら課題解決を図るような探究的な学習の充実
 - 児童生徒の1人1台端末を活用した学習の個別化と個性化を図る取組を実践
- (2) 学習内容の確実な定着と家庭学習の充実
 - 一層短いサイクルで学習内容の定着状況の把握→つまずきの解消
 - ・ 定着状況ウォームアップ(小学校)及び定着状況確認テストの実施
 - ・ 学校全体で、個に応じた課題や一人一台端末を活用した補足的な学習指導等によるつまずき解消に向けた取組の実施
 - 持ち帰りを含めた児童生徒の1人1台端末の効果的な活用による家庭学習の充実
- (3) 夢育・キャリア教育の推進
 - 総合的な学習の時間を核とした「岡山型PBL」の推進